# 2022 年度実施概要

学校名

| |
|---|
| 気仙沼市立唐桑小学校 |

採択活動名

| |
|---|
| 自ら課題を見いだし，身に付けた知識を活用して解決しようとする児童の育成<br>～　「海と生きる探究活動」における探究的な学びの充実を通して　～ |

実施単元　※実施した単元の数に応じて記載してください

| 単元名 | 学年 | 教科 |
|---|---|---|
| 1.　唐桑の「宝」を知ろう | 3 | 特別の教育課程<br>「海と生きる探究活動」 |
| 2.　唐桑のカキとカキ養殖の秘密を探ろう | 4 | 同上 |
| 3.　世界につながる海の「今」を探ろう | 5 | 同上 |
| 4　自分たちの未来を考えよう | 6 | 同上 |

取り組みの概要

特別の教育課程特例校「海と生きる探究活動」（２年目）の取組

**１　活動のコンセプト**

３年　「海と関わる暮らしや歴史・文化」
４年　「東日本大震災からの復興」
５年　「海の環境の移り変わり」
６年　「環境資源を生かしたまちづくり」

**２　本校の海洋教育のねらい**

○　東日本大震災の被災地に生きる気仙沼人としての「知識及び技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう人間性の涵養」を目指す。

（１）「海と生きる」気仙沼市の地域の環境，産業，伝統・文化に関心を持ち，それぞれのつながりや関わり等に目を向け，自分なりの課題を見付けて進んで解決しようとする意欲を高める。

（２）自分なりの課題について学ぶ必要性と道筋を理解しながら，他者と協働して対話的に学習を進めるとともに，今後の生活の在り方や地域の持続可能な未来について，自分事として深く考える態度を育てる。

（３）学ぶ目的や内容に応じた探究方法・まとめ方・表現の仕方等を工夫し，聞き手に分かりやすく効果的に発表・発信する力を身に付け，自らもより良く行動できるようにする。

**３　海洋教育のねらいの設定に込めた本校の思い・背景**

本校は，令和３年度より文部科学省及び気仙沼市より指定を受け，特別の教育課程「海と生きる探究活動」の研究・実践に取り組んでいる。東日本大震災以前から，本校では，学校支援委員会（唐桑公民

館・宮城県漁業協同組合唐桑支所及び同組合青年部・海友会）の支援を受け，ふるさと学習会（唐桑公民館主催）やカキ養殖体験（学校支援委員会主催）を中心とした海と関わる活動に取り組んできた。取組を通して児童は，海の環境や産業，そこで働く人々等への関心を高め，知りたいことや疑問に思ったことを自ら調べたり，今後，ふるさと唐桑のために自分たちができることはないか考えたりする等，それぞれに思考力・表現力・判断力を養ってきた。

震災により，特に沿岸部は甚大な被害を被ったが，震災後の平成２４年８月に新しいカキ養殖筏が完成し，カキ養殖体験が再開された。近年，唐桑町の基幹産業として成長してきたカキ養殖等に携わる漁師・漁業協同組合の方々等の苦労や工夫，思いや願いは，震災後，唐桑町の持続可能な発展にとってますます重要な要素として位置付けられるものであると考える。このことは，学校教育において，持続可能な開発目標（SDGｓ）「豊かな海を守る」を念頭に置く海洋教育の推進に大きくつながるものである。

**４　今年度，海洋教育に取り組んで達成したことや充実を感じたこと**

本校では，今年度も３～６年生で実施する「海と生きる探究活動」を校内研究として位置付け，以下の視点で，海洋教育の推進に全校体制で取り組んできた。

視点１　問題意識を持たせるための課題設定の工夫

課題設定の段階で，以下のように外部講師を招聘し，各学年のテーマに沿った話題提供や質疑応答に対応していただき，学校・児童と地域とのつながりが深まった。

３年生『唐桑の「宝」を知ろう』　地域住民①食文化について（児童の祖母）
②昔の生活について（児童の祖母）
③大漁唄い込みについて（鮪立大漁唄い込み保存会）
④カキ養殖について（カキ養殖漁師）
４年生「唐桑のカキと養殖のひみつを探ろう」　学校支援委員（宮城県漁業協同組合唐桑支所）
５年生『世界につながる海の「今」を探ろう』　気仙沼市探究学習コーディネーター
６年生「自分たちの未来を考えよう」　株式会社オガール代表取締役　岡崎正信　氏

講師の先生方の実体験に基づいた講話や投げ掛けが探究活動の動機付けとなり，児童は，自分たちのテーマに関する興味・関心を持ち，探究したい課題について自分なりの思いや考えを明確に持つことできたと思われる。

なお，児童が立てた探究活動のグループ課題（６年生は個人課題）は以下の通りである。

| 学年 | 活動のねらい | 探究課題 |
|---|---|---|
| ３年 | ○　唐桑地区の人が守り続けてきた自然・伝統・産業などを体験的に学び，自分たちが自然の恩恵を受けて生活していることに気付く。<br>○　学習を通して，唐桑の人たちの温かさやつながりの強さについて実感し，自分たちも地域の一員として受け継いでいこうとする態度を育む。 | ①鮪立大漁唄い込み<br>②唐桑の郷土料理<br>③唐桑の養殖漁師さんの思い<br>④昔の唐桑 |
| ４年 | ○　唐桑の海でカキ養殖などの水産業が盛んなわけを調べることを通して，自分たちと自然環境，社会とのつながりについて理解し，森・川・海がつながる唐桑の町や気仙沼の環境をより良くし，震災からの復興を遂げ | ①カキ養殖の歴史のひみつ<br>②リアス海岸のひみつ<br>③漁師のひみつ<br>④カキの料理 |

| | | |
|---|---|---|
| | ていくために自分たちができることを考え，実践していこうとする心情を育む。 | |
| ５年 | ○　唐桑（気仙沼）と世界の海の現状を探究し，自分たちと自然環境，社会とのつながりについて理解を深め，唐桑（気仙沼）とつながる環境をより良くしていくために，自分たちができることを進んで実践していこうとする心情を育む。 | ①ジブリのアニメから分かる環境問題<br>②森と海のつながり<br>③地球温暖化の影響<br>④リサイクル |
| ６年 | ○　唐桑と海の環境を見つめ直し，豊かで恵まれていることや問題となっていることなどについて調べることを通して，自分たちと自然環境との関連性に気付き，自分の住む唐桑のより良い未来はもちろん，世界に目を向けて自分のできることや，協働でやるべきことを提案し，より良いまちづくりについて発信しようとする心情を育む。<br> <br>６年　まちづくり講話<br>株式会社オガール代表取締役　岡崎正信　氏 | ①唐桑の建物～観光･イベントの取組～<br>②唐桑のまちづくり<br>③唐桑の特産品について～唐桑の特産品の魅了～<br>④唐桑や気仙沼の少子高齢化率と世帯数とオルレ<br>⑤唐桑の郷土料理<br>⑥海洋ゴミを減らすために~自分ができることから~<br>⑦唐桑の新鮮な魚を広める<br>⑧唐桑の人口と観光客<br>⑨自然<br>⑩唐桑の人口と観光客<br>⑪ホヤはどのように有名になっていったのか<br>⑫唐桑の漁の仕方について<br>⑬少子高齢化を減らすことは出来るのか<br>⑭唐桑の人口減少と観光客<br>⑮唐桑御殿<br>⑯防潮堤の大切さ<br>⑰唐桑の特産品は，どのように加工されているのか<br>⑱唐桑の建物の歴史 |

視点２　探究的な学びの充実

探究活動については，昨年度と同様に，一次課題　⇒　中間発表　⇒　二次課題　⇒　発表（リアスサミット in 唐桑）の２段階で進めた。

海洋教育こどもサミット in 気仙沼での発表

これまでは，どの学年も同じような課題を持つ児童でグループを編成して活動していたが，今年度は，６年生が個別に課題を探究する取組を行った。多様な課題や個人の能力差等への対応への難しさはあったが，これまでの取組を十分に生かし，互いの情報や取組状況等を授業支援クラウド「ロイロノート」を活用して共有しながら，一人一人が主体的に探究やまとめ，発表に取り組んだ。その成果を「海洋教育子どもサミット in 気仙沼」や「リアスサミット in 唐桑」で，一人一人が探究の筋道を明らかにしながら，ふるさと唐桑のまちづくりへの思いや提言を堂々と述べることができた。

また，５年生では，気仙沼市探究学習コーディネーターを活用して，児童がより深く探究できるように内容や方法等について支援を受け，課題を解決していく上での多様な見方や考え方につ

いて学ぶことができた。さらに，気仙沼市立月立小学校を訪問し，学校周辺の山を散策する「八瀬の山を歩こう」を実施して，海・川・森のつながりについて体験的に学びを深めた。月立小学校とは令和元年度より，リアスサミット in 唐桑を通じて交流しており，今後，この新たな交流の設定を互いの学びをより深めたり，高め合ったりする場として位置付けたい。

海洋教育こどもサミット in 気仙沼

リアスサミット in 唐桑

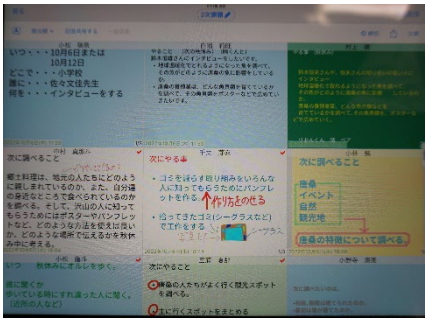
探究学習コーディネーターの活用

八瀬の山を歩こう

視点３　学びを生かす振り返りの工夫

探究活動を，児童の実態に応じて効果的に進めることができるように，学年ごとにチェックシートを作成して活動を振り返り，次の活動に生かすようにした。また，教師自身も，授業評価シートで活動を随時振り返り，授業改善に努めた。

また，ロイロノートを活用して，児童が計画したり，調べてまとめたりしたものを随時累積・共有・評価することによって，ＰＤＣＡ的な学習が確保され，より探究的な活動につながったと考える。


ロイロノートの活用